



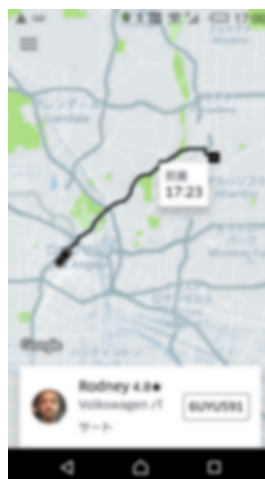
### 資産運用こぼれ話 ウーバー初乗り体験記

寄稿：岡本 和久

3月末から4月の始めにかけてロサンゼルスとサンフランシスコに出張してきました。到着後、知り合いがまず勧めてくれたのがウーバーのアプリをダウンロードすることでした。早速、実行。そして、名前（ニックネーム）、メールアドレス、電話番号、そして代金支払のためのクレジットカード情報などを入力。あとは必要なときにアプリを立ち上げ行先の住所を入力。私の居場所はGPSで自動入力されていました。

画面上では小さな黒い車の絵がわんさとあります。こんなにウーバーに登録している車があるのかと驚きます。候補の運転手が表示されます。運転手のウーバー歴、これまでの送迎実績回数、乗客による格付けなどがわかります。その運転手で良ければOKを押し、しばらくするとアプリに表示されたナンバーの車が到着。何度も使いましたが大体、5分以内で来ました。

運転手さんが私のニックネームを聞くのでYesと言って乗ると、あとは何の話もせず、行先を指示する必要もありません。料金も事前に入力されていました。



そして目的地に着いたらあとは黙って降りるだけ。しばらくするとメールで領収書が送られてきて、チップの選択肢が表示されるのでそのうちの一つを指定、そして運転手さんの評価



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

の★を選びます。運転手さんも乗客の評価をする相互評価です。車も普通のタクシーよりはきれいな感じでした。

タクシーのように配車の料金もなく、最初から料金が決まっているので知らない土地で遠回りをされたり、ドライバーがなかなかメーターを倒さないなどの不安もありません。私の体験した限り、日本語での表示も問題ありませんでした。

運転手にとっても最初から行先がわかっているし、自分のやりたい時だけ仕事ができるメリットがあります。例えば自宅から最寄りの電車の駅まで自分の車で行く途中で、駅まで行きたい人から依頼があればちょっとしたバイトもできるわけです。そして、何よりも乗客と運転手の相互評価である程度、相手の信頼度がわかるということもあります。完璧ではないかもしれませんがこれは普通のタクシーではありえないことです。

超繁華な観光地では車を見つけにくいなどの問題もありましたが、ホテルではすでに Uber Pick-up & Drop-off というポストがちゃんと車寄せにありました。Lyft というコンペティターも生まれたようです。すでにレストランのテイクアウトを運ぶUber・イーツなども始まり、いずれ物流への応用も始まるでしょう。自動車の販売にも影響があるかもしれません。社会、経済、産業の構造に大きな変化を感じさせる体験でした。



(この記事は投資手帖 2018年6月号に寄稿したものに加筆修正したものです)